







Ryuta
Iida
Exhibition



The
words
of
the
inside
margin
and
darkness
at
time.



2017.4.15-6.30



八戸ブックセンター ギャラリー企画展示

飯田竜太展 「のどの文字、間の無光」

The words of the inside margin and darkness at time.

2017年4月15日(土)～6月30日(金)

11:00～20:00 火曜休館 / 入場無料

展示記念トークショー 飯田竜太 x 内沼晋太郎 「美術と彫刻と本について」

期日：6月24日(土) 14:00～15:30 入場無料

八戸ブックセンターではこのたび、飯田竜太個展「のどの文字、間の無光」を開催致します。

飯田竜太氏は、作家活動と並行して、八戸短期大学幼児保育学科の常勤美術講師として、2010年から2015年まで八戸に在住・在勤していた、八戸ゆかりの彫刻家・美術作家です。自身が読み終わった本や、捨てられる運命にあった本を素材に、本という物質とそれが持つ意味に焦点を当てた彫刻作品を作ってきました。

彫刻作品といって多くの人が思い浮かべるのは、木材などを素材にしたものでしょう。しかし飯田氏の作品においては、素材は本です。本の大部分は紙でできていて、紙の主原料であるパルプの多くは木材でできていますから、元をたどれば同じはずですが、ところが私たちは飯田氏の作品を見て、その素材が本であることに驚いたり、少し心がざわついたりします。物質としては同じ由来であるはずなのに、なぜでしょうか。その感覚の違いに思いをはせることは、私たちが普段触れている本というものが持っている特別な価値や意味について、あらためて考える機会となることでしょう。

田中義久氏とのアートデュオ「Nerhol」の活動で知られ、世界的な評価を得ている飯田氏の、作家「飯田竜太」としてのもうひとつの側面。これほどまとまった量の作品が並ぶ個展の機会は、都内でもめったにありません。ぜひゆっくりとご覧ください。

八戸ブックセンター

作家挨拶

本を読み進めていくと、本のちょうど中心のページに当たる時が必ず来る。背表紙が二つに割れるくらい強く開くと、ページの中心から文字が見える。本に記載された文字全てを読んでいるつもりが、読んでいない文字に出会い、ハッとする。物質は目に見えないものを保存させる媒体であり、形は時を超える。見えない文字もまた、物質とともに時を超える。言葉や文字は、目に見えないイメージを鮮明に与えてくれる。物質と意味の可能性を考えるきっかけとしてこの展示会の作品が伝わることを願う。

飯田 竜太

飯田竜太 Ryuta Iida (彫刻家、美術家)



1981年静岡県出身。2014年東京藝術大学先端芸術表現科修了。2004年第22回グラフィック『ひとつぼ展』グランプリ。2015年より日本大学芸術学部美術学科彫刻コース常勤講師。2007年グラフィックデザイナー田中義久とアートデュオNerhol(ネルホル)を結成。

Foam Photography Museum(2015年/アムステルダム)での個展、Festival Images(2014年/スイス)に参加など国際的に活動。2016年5月には金沢21世紀美術館にて個展「Nerhol Promenade/プロムナード」を開催。



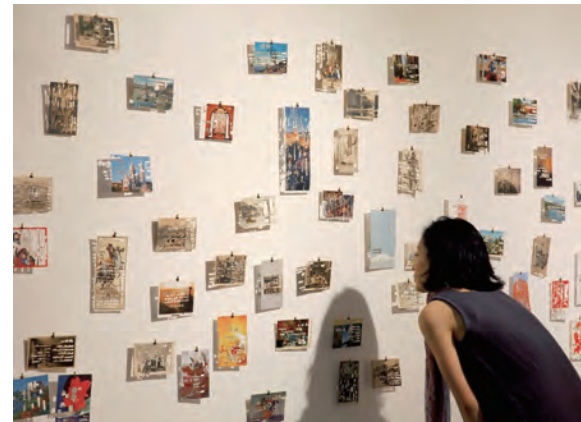
I see, I can't see. [目に見える、見えない] 2004~ photo:MasaruYanagiba



The meaning, Distortion. [歪曲の形 1] 2014



Book makes everything warp. [歪曲の参稼] 2016



Verbalizes [出会えないから言葉で] 2012

photo:Motoyuki Shitamichi

八戸ブックセンター

〒031-0033 八戸市大字六日町16番地2 Garden Terrace 1階 / 開館時間：11:00～20:00 / 休館日：火曜日
電話：0178-20-8368 FAX：0178-20-8218 web：https://8book.jp/



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER